

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078300169		
法人名	社会福祉法人 立花福祉会		
事業所名	フラワーハイム		
所在地	福岡県八女市立花町下辺春5460番地1 (電話)0943-37-1613		
自己評価作成日	平成29年4月25日	評価結果確定日	平成29年7月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念「尊厳」のもと「フラワーハイム」では、お一人お一人の個性を尊重した支援を目指します。「目配り、気配り、心配り」をモットーに入居者様が、毎日の生活に「生きる楽しみや」や「共に生活することによって生活に充実感を感じて頂き、このホームを「自分自身の居場所」として頂けるようにサポートして行きたいと思えます。また職員自ら創意工夫し安全、衛生面に配慮しながら入居者様の日常生活及び人生経験を重んじ、笑いの絶えない「わが家」のような暮らしをサポートして行きたいと思えます。入居者様の生活スタイルに合わせ、地域との交流を行ない、自立支援のための介護を提供していきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成29年5月19日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然豊かな山中に位置し、母体である特別養護老人ホームの奥に、白を基調とした木造平屋建て1ユニットの事業所である。法人理念である「尊厳」を基本とし、事業所独自の理念である「地域の中で人として、普通に自分らしく暮らしたい」をいつも念頭に、意識しながら、日々健やかに穏やかに暮らせるよう、実践にむけて取り組んでいる。法人全体で開催している夏祭りは、たくさんの人が集い、地域とのつながりを大事にしている。利用者と職員は、尊厳にある文言「安心・笑顔・やすらぎ」の法人理念をみんなで共有し、ここが我が家と思える家庭的雰囲気大事にしている事業所である。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念『尊厳』をもとに基本方針及び各スタッフと共に協議を踏まえ部門目標を掲げ毎日の朝礼時に確認しながら支援に努めています。	事業所独自の理念として「地域の中で人として普通に自分らしく暮らしたい」を掲げ、また法人理念でもある「尊厳」を念頭に、利用者一人ひとりが健やかに生活出来るよう、職員は毎朝礼時確認しながら実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	気候の良い時期には日課としてホーム周辺の散歩を行ない地域の方達と顔見知りになり交流を図っています。また、地域行事に参加したり町内の小中学校からの職場体験訪問を通じ交流を行なっています。	法人として自治会に加入している。地域行事である秋まつりや牛石岩祈願祭に参加している。法人・事業所主催の祭りは、250~300名位の参加があり、夏の恒例イベントとして定着している。中学生の職場体験や行政の新人教育研修の受け入れを行っている。散歩では近所の人に声を掛けられたり花を頂くなど日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催の介護教室等に協力する体制を整えながら研修生や職場体験等の要請があれば可能な限り受け入れています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回(年6回)、市職員、区長、民生委員、家族、入居者、施設長、スタッフが参加し事業報告及び運営状況、の報告を行なっています。また、議事録を作成し内容を把握してサービスの向上に努めています。	運営推進会議を定期的に開催している。事業所から利用者やサービスの実際・今後の活動計画を報告し、参加委員から意見や助言をもらっている。外部評価の意義や自己評価をすすめる事により振り返りができ、利用者・家族に、安心・満足がいく運営や介護の質の向上に活かすよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議を通じ市の担当職員と事業所(現場)の実績やケアサービスにおける課題を協議しながら協議機関を作っています。運営に対する疑問や問題点がある場合はその都度行政窓口に出向き相談し助言をしてもらっています。	行政と事業所は日頃から連携を図っており、家族からの問い合わせなど疑問があれば、お互いにFAXや行政窓口で相談できる関係を築いている。「八女市地域密着型サービス連絡会議」を通じ、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてマニュアルを作成し委員会活動や研修会を通じ自己啓発に努め身体拘束をしないケアについて理解を深めています。拘束を行なう場合は状態、時間、心身の状況を記録に残し万が一事故につながる恐れがある時はご家族に十分に説明を行ない同意のもとに実施し拘束解除に向けての同意を行なっています。(同意書作成)	日中は施錠していない。身体拘束に関するマニュアルを作成し、全職員は内部・外部研修に参加し、その弊害を知っており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。パンフレット・研修記録・報告書がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一同、虐待等により利用者の尊厳が損なわれることがないように注意を行なっています。研修会に参加し、理解を深め虐待防止への意識を高めています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や法人外での研修に参加し権利擁護への理解に努め必要とされる利用者への援助を行なえる体制を整え啓発に努めています。	権利擁護に関する制度については、パンフレットを用意し利用者・家族には、契約時に説明している。全職員が内部・外部研修を受講し、全員の研修報告書がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には契約書、重要事項説明書に沿って分かりやすく説明し納得、ご理解を頂き同意を得た上で契約を行なっています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、ご本人やご家族に対して相談苦情への窓口の説明を行ない重要事項説明書をホーム内に掲示し御意見箱を設置することでご希望やご意見をしっかりと受け止め適切に対応しています。	利用者・家族は運営推進会議に出席しており、意見や思いを述べる機会がある。家族の来訪時には、意見や思いを聴けるよう声掛けに努めている。バスハイクや菜園の草取りなど運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のケアカンファレンスを開催し、職員間の意見交換や情報も共有を図り、日頃より発言や提案がし易いよう職場環境づくりに取り組み、仕事への意欲を高めるように努めています。	自己評価は全職員の意見を聴取して取り組んでいる。職員は日常的に運営に対する意見や提案、研修受講、勤務に対する希望など言いやすい職場環境にある。利用者ケアについてケアの統一、情報の共有、業務内容の見直しなど運営に反映させている。法人運営者は職員個々に面談するなど配慮している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人運営者は職員一人ひとりと面談を持つことで日頃の努力や実績を把握し向上心を持って仕事を行なえるように配慮し資格取得や経験年数に応じ昇給、昇進を行うことで意欲を持って働けるように取り組んでいます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職場の募集や採用にあたっては介護職の経験や資格及び人間性を重視しています。施設内研修や外部研修会参加などバックアップ体制を整えています。	採用選考では、熱意や、適性・人間性を重視し性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。職員が意欲を持って働けるよう差別なく誰もが安心して働ける職場環境を目指し、研修の参加、スキルアップに努めている。毎年親睦会を開催している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権研修へ参加する機会を設けまた法人内でも研修を実施し職員に対しての人権教育、啓発活動に力を注いでいます。	事業所は全職員に対し、外部・内部研修で人権教育について学ぶ機会を設けている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書などがある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格、力量に応じた研修を受講できるよう体制を整えています。また、法人主催の研修会を開催しスキルアップに努めています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会参加や八女市地域密着型サービス連絡協議会を通じ、同業者との交流や情報共有を図りサービスの質の向上に努めています。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みがあった場合は事前訪問やホームに来訪して頂き説明を行ない、ご本人様の要望や心配な点を伺いながら受け止めるように努めています。相手の立場に立って傾聴することで信頼関係を築きご本人やご家族の思いを十分に理解した上でしっかりと支えられるように努めます。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望がある場合には随時見学を受け入れておりパンフレットに沿って説明を行ない現在でのお困り事や不安な事を傾聴するように心がけています。また、事前面接を行ないご本人のニーズを把握し情報の確認に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご本人やご家族と面談を行ない十分に情報を収集し、ご家族の協力を頂きながら安心できるサービスを提供するように努めています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様一人おひとりの出来ることを見極め生活の中で役割や力の発揮できる機会を提供し、お互いに支え合う関係を築けるように努めています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常時ご家族と連携を取ることで入居者様の思いや生活の様子を理解して頂きご家族様と一緒に支え合うように努めています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や知り合いの方が面会に来られた時などはゆっくりと話し合いができるような環境作りを心がけています。また、馴染みの場所へのドライブ等の機会を提供し昔の思い出話に花を咲かせてもらえるように支援しています。	利用開始時に、利用者の基本情報を聴取する際、本人・家族などから馴染みの人や場所について聴取し把握している。散歩中知人と出会い、お見舞いに見えた時は、居室でゆっくり雑談してもらう。またドライブ中に自宅を教えられたり、馴染みの人との関係を継続出来るよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃よりご利用者同士の人間関係を十分に把握しトラブルが生じないように配慮行なっています。また、トラブルが起こった時には双方の意見や考えを尊重した上でお互いの関係が誤った方向へ進まないように助言等、環境を変える等の適切な対応を心掛け、関係の修復に努めています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でもご家族からの要請があればその後も相談ができるような環境作りを整えています。		



項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から利用者様とのコミュニケーションを十分に取り常にその方の立場に立ち思いをくみ取れるような支援に努めています。また把握が困難な場合は、ご本人の視点や立場に立ち検討行っています。	利用者の表情や行動、変化について普段から気を付けている。熊本地震の後に利用者の様子に変化が見られたが、職員で話し合い、本人に合わせた支援を行っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族の協力を得て生活歴や暮らしぶりについての情報・生活環境・サービス利用経過などを把握し、スタッフ間での情報の共有を図っています。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を把握しその人なりに楽しく過ごして頂けるよう支援しています。本人の出来る事・可能性を見出すように努め、心身の情報などケース記録に残し、職員間で情報の共有を図っています。又毎月のケアカンファレンスは、モニタリングを兼ね総合的に現状把握に努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやサービス担当者会議を通じ、ご本人様がより良く暮らして頂けるようケアのあり方について話し合い、現状に即した介護計画を作成し定期的に見直しや振り返りを行っています。	介護計画を3ヶ月に1度見直ししている。カンファレンス時に職員からの意見を聞いたり家族の意向を訊ねたり、本人の様子から希望を汲み取ったりして、それを反映して計画を作成している。介護計画は家族へ説明し了解を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録や気付きや特変事項等を欠かさず連絡事項に記入し、スタッフ間での情報を共有しながら実践やケアプランの見直しの参考にしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への受診、本人や家族の状況・ニーズに応じ柔軟な対応での支援に努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加、外部や地域の方の施設見学、市役所職員の職場研修の受け入れや地域ボランティアの受け入れ体制を整えています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の主治医の診察があり本人や家族の要望があれば馴染みの医師による継続的な医療が受けられるよう支援を行っています。	嘱託医の往診が月2回ある。他のかかりつけ医に受診する際は家族に同行をお願いしているが、職員が代わりに同行することもある。受診の際は、お互いに報告しあい、家族と職員が情報を共有している。また、事業所に非常勤の看護師が勤務している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から関係医療の主治医や看護師への相談や連携を図り、緊急時に速やかに対応が取れる体制を整えています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には家族同意のもと情報提供を行ない入院中は面会に行き関わりを継続し、病院と連携を持つようにし早期退院に繋がるように努めています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を説明し確認を行っています。終末期をホームで安心して療養されるようにホームで出来る可能な事や不安や困難な事などを率直に話し合い同じ思いで支援できるよう主治医との連携を図っています。	重度化や終末期のあり方について、マニュアルがあり、それに基づいて支援している。医療的支援を希望されず、事業所での生活の継続を希望された際は、看取りを行っている。家族と職員が話し合って情報を共有するようにし、利用者へは声掛けや体をさするなど安心して過ごせるように配慮している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケアカンファレンスの中でマニュアルの確認等の周知徹底を行なっています。法人主催の研修会や外部研修に参加し初期対応や応急手当について学んでいます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内の避難訓練を年2回実施し避難経路・場所・方法の確認や消火訓練を行っています。またカンファレンスにおいてマニュアルの確認、周知徹底を行なっています。災害に備えての非常食や飲料水などもホーム内に備蓄しています。地域の方々には運営推進会議にて緊急時の連絡方法や応援体制について確認し、態勢を整えています。	年2回訓練しており、うち1回は夜間を想定して実施している。区長から非常の際は協力すると言われており、訓練時に参加の呼びかけもしている。非常用備品や食料は事業所内に保管している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別対応を基本に行い本人の思いや気持ちを尊重し、プライバシーや羞恥心を損なう事がないように声掛け等の対応を行っています。個人情報に対しては法人全体で研修に取り組み意識向上に努めています。	法人の理念に基づき、利用者には自由に行動し、生活してもらっている。バイタルチェックなどは利用者がテレビを見ている時には後でチェックするなど利用者の意思を大切にしている。利用者への声掛けは小さい声するなど配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心掛け日常生活の中で表情・行動・会話から希望や願いを察し支援を行なっています。レクリエーション散歩等を行なう際には利用者の希望を取り入れ取り組むように支援を行っています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の一日のスケジュールは大まかに組んでいますが個々一人ひとりの生活のリズムに合わせ、その都度臨機応変に対応し利用者様の意見を尊重しながら支援を行っています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関してはご家族様に準備して頂いています。更衣の際は本人の趣向で選んで頂く様に支援を行なっています。訪問美容は二か月に一回の頻度で利用され事前に希望を伺い満足して頂くように配慮しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士作成の献立に基づき利用者様の好みに合わせアレンジを行なっています。調理の下ごしらえや料理の味見・引き膳など利用者に手伝って頂いています。料理の彩り等を配慮しスタッフも同じテーブルに座り一緒に楽しんでもらうように努めています。	食事は、利用者にごしらえやお盆拭きなど手伝ってもらっている。利用者が楽しく食事ができるように、家族や本人の意向に沿って刻み食を普通食で提供したりするなど、話し合いながら対応している。庭で野菜を育てており、じゃがいも饅頭を作って食べるなど楽しんでいる。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量をチェックし記録を行なっています。特に夏場などは水分補給が細目に必要な時期ですので積極的な促しを行ない脱水症状を予防するようにしています。また、テーブルの上に常にお茶を置きいつでも飲んでもらえるような配慮を心がけて支援しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じ口腔ケアを歯科医の指導のもとに実施しています。土曜日は義歯洗浄を行ない清潔保持に努めています。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に排泄パターンを把握し時間帯を考慮して介助が必要な人へ声掛け、誘導を行なっています。失禁、失便の際にはご本人のプライバシーに配慮した接遇に努めながら自立に向けた援助を行っています。	一人ひとりの状況に合わせてパットや布パンツを使用している。職員は利用者の尿意や、時間間隔を把握してトイレへ誘導している。職員同士が積極的に話し合いをしており、夜間のトイレ誘導についてなど、利用者にとって何が良いか話し合いながら支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状態の把握に努め主治医の指示のもとに適切な対応を行っています。食事の際には野菜や食物繊維を多く含む食材をできるだけ摂取して頂くことや心身状態の安定のために適度な散歩、軽運動をしてもらい元気で健やかに生活してもらえるように努めています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりのご希望に応じた適度な湯温、湯量にて入浴して頂いています。また、状態に応じて体調が安定されている時にはできるだけ入浴をして頂けるように声掛けや対応の仕方にも配慮し心身共にリフレッシュされるように努めています。	基本的に3日に1度の入浴であるが、利用者の希望に応じて対応している。入浴を拒否される場合は、声掛けの方法や職員を替えたりして対応している。入浴は個室であるため話を沢山し、会話を楽しんでいる。着替えの洋服を利用者に選んでもらっている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを考慮して見守りを行ない安心して休んで頂けるよう心がけています。不眠の方にはなるべく眠剤に頼らず、1日の生活のリズムを整え、声掛けや見守りを行いながら気持ちよく眠れるよう取り組んでいます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1回/2週のペースで主治医の訪問診療があり、主治医の指導のもとに内服管理を行っています。また、内服時には必ず氏名、薬名等の確認を行ない提供しています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の特意分野や興味のある事を把握し家事手伝い等、洗濯物たたみなどをして頂き役割を持って生活して頂いています。また、バスバイク等の気分転換の機会を提供することで季節感を感じて頂けるように努めています。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日、気候に恵まれた時には園内、近くの公園への散歩を促し花見や季節の花々を楽しんで頂き季節変化を感じてもらえるような支援に取り組んでおります。	天気の良い日は、敷地内や事業所の下にある公園へ飲み物を持って散歩に出かけている。散歩の途中で地域住民と話をしたり、おすそ分けをもらったり交流して、楽しんでいる。近くの神社などへドライブに行った際には、利用者の美家の近くを通ったりしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関してはできる限り所有して頂くことが生活の中で望ましいと考えていますが、グループホームである為認知症の進行に伴い金銭管理が困難になられている為、所持して頂いていません。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用の際は代行支援を行ったり、年賀状や暑中見舞いなどご家族やご友人に宛に出される機会を提供するなどの支援を行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間には、利用者の方々にとって不快な音や光が入らないように配慮し、家庭的な雰囲気の中で生活が送れるよう環境の整備（季節の花を花瓶に飾る等）を心がけ、和やかな空間で穏やかな時間が流れるように取り組んでおります。	居間は窓が大きくなっており、外の風景がよく見え、室内も明るく過ごしやすい雰囲気になっている。散歩で利用者が摘んできた花や、文化祭に出展するために作成した作品などが飾られている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームにソファやテレビを設置し利用者同士会話を楽しめたりテレビを視聴して頂いたり自由な時間を過ごして頂けるように配慮しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の家具や好まれる物を持ち込んで頂き居心地の良い空間ができるよう配慮しています。また居室の壁にご家族との写真や誕生日の色紙を飾り、『自分の部屋』であるという居住空間への安心感を持って過ごしてもらうように努めています。	利用者や家族が馴染みのタンスやテレビ、仏壇などを持ち込んでいる。利用者は日中共用空間で過ごされていることが多いが、夜間など居室で自由な時間を過ごし寛いでいる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレなどの大事な場所に手すりを設置したり浴室にはシャワーチェアや滑り止めマットを置くことで安全に配慮しています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない